

環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 ➤ CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

CHALLENGE! 4 水環境インパクト 最小化チャレンジ

TARGET 各事業所で

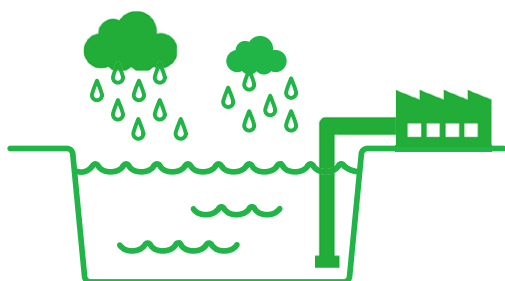
水の使用最小化 排水の浄化



世界総人口の20%にあたる約12億人が安全に水資源を利用できていないなか（環境省HPより）、今後の人口増加により、さらに水不足が拡大すると考えられます。日野グループでは、水使用の削減を図ると同時に、各事業所から自然に還す際の排水の徹底浄化を進め、水資源問題に対し、地域と一緒に取り組めます。

量

使う水は **少なく**



水資源の用途の大半を占める工業用水を削減すべく、排水の回収および再利用化を進めます。また、雨水を積極的に利用するため、敷地内に貯留ピットを設け、さらなる工業用水の新規投入量削減を目指します。さらに生活用水も削減を図るべく、食堂、トイレ、手洗い場などについて設備対策（節水型食洗器、節水コマなど）や節水啓発活動を徹底します。

質

還す水は **きれい** に



日野グループでは各事業所の排水処理場および排水浄化設備の運用基準を厳格化することで、排水の徹底浄化を推進します。また同時に液物漏洩リスクを徹底的に低減することで、排水の水質悪化の未然防止を図ります。



環境憲章 日野環境チャレンジ2050 CHALLENGE! 1 CHALLENGE! 2 CHALLENGE! 3 > CHALLENGE! 4
CHALLENGE! 5 CHALLENGE! 6 主要パフォーマンスデータ 環境マネジメント マテリアルバランス

工場における節水の取り組み

少なく きれい

トラック・バスを製造するのに水はなくてはならないものです。それだけに貴重な水資源を有効活用すべく、日野自動車は長期環境ビジョン「日野環境チャレンジ2050」を策定し、日々の水使用量低減に取り組んでいます。今後も「水環境インパクト最小化チャレンジ」達成に向け、身近な範囲にも目を向けた節水活動に取り組んでいきます。

主な取り組み事例

- 節水パトロールによる無駄な使用(洩れ・オーバーフロー〈垂れ流し〉)の撲滅
- 節水への啓発活動(ポスターによる呼びかけなど)
- 雨水および排水処理場処理水の有効利用

事例 | 水を使わない塗装ミスト回収技術の導入

古河工場のキャブ塗装工程にて環境負荷低減に対応した塗装設備「ドライブース」を導入しました。従来方式では塗料ミストを水膜で除去したうえで薬品を使用して塗料を回収していましたが、新方式としてフィルターと炭酸カルシウムを使用し、水や薬品を使用しないシステムとしました。

ドライブースの構造



ドライブースの仕組み

